

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100206		
法人名	有限会社 ゆうしん		
事業所名	グループホーム錦ヶ丘		
所在地	熊本市東区錦ヶ丘26番11号		
自己評価作成日	26年10月7日	評価結果市町村受理日	平成27年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階がデイサービス、新館2階が小機後多機能型居宅介護、3、4階が特定施設入居者生活介護となっており、合同での夏祭りや敬老会などの行事を年に数回、開催し他部署との交流を図っている。ホーム内では介護保険サポーターやボランティアの方に定期的に来て頂き、レクリエーションや食事の支度などを利用者と一緒にしたり、また、どんどやなどの地域行事にも参加し利用者が地域の方と交流を図れるよう努めている。利用者の急変時には看護職員、訪問看護の看護師と24時間連携を図っている。また、看護職員が不在の際は、他部署の看護師との協力体制が整っており、利用者が安心して暮らせる様支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者福祉が集中した2階に位置するホームでは、地域連携室の立ち上げや運営推進会議の参加メンバーの充実が消防団への加入や四つ角マーケットへの参画等地域の中での基盤をさらに強固にしている。2階と言うデメリットを地域ボランティアの積極的な受け入れは、入居者のより豊かな時間として、地域住民との交流の場として最良の機会としている。入居者一人ひとりの特性や個性を把握し、心身の状況に応じた支援、穏やかな表情でその人らしい生活を継続させており、職員の寄り添いのケアや気づきの成果及び理念の実践であると言える。平成18年の開設と言う経年により重度化する入居者を、悔いの無い接し方をしたいと法人のバックアップや主治医との連携及び話し合いを重ねながらの安心した暮らしの実現は職員の深い思いに敬意を表したい。この地の高齢者福祉の核となるべく施設としての期待も寄せられており、更なる展開に大いに期待したい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年10月17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示を行い、毎朝全員で唱和している。理念を共有して実践に繋げるよう努力している。	法人の綱領や基本理念である“誠実と笑顔、安全と安心、地域社会の信頼”を大切にすることをケア規範として、ホーム独自に理念を掲げ、掲示や唱和による意識向上を図っている。入居者との会話の中から生活歴や若かりし日の事を引出し、住み慣れた場所への外出等に理念が反映されている。職員も自己チェック等によりケア向上を図り、新規入職者には生活歴を尊重し、安心した生活を支援すること等理念に則ったケアに努める事を指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	25年度より、地域連携室を立ち上げ他部署と協力し、地域行事等準備より参加、また、消防団へ入団し、地域との交流を深めている。行事には利用者も参加され楽しまれている。	地域連携室の設置や運営推進会議に町内会長の参加が更に地域との関係が密接になっている。四つ角マーケットへの企画・参加や地域の運動会時には地域高齢者との昼食、保育園の入園式や運動会への参加と地域生活が拡充されている。校区から町内のサロンと変わり入居者も参加が可能となり、地域住民との交流として生かされ、市の清掃活動に参加したり、消防団に加入する等地域の一員として活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流サロン参加の際に話をしている。また、中学生の職場体験の受け入れを通じて、認知症の説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で日常の様子や行事等報告を行い地域の方と意見交換し、サービスに生かしている。	定期的開催している運営推進会議はホームの状況・地域の行事予定、地域包括支援センターからの地域情報をもとにした意見交換が行われている。昨年度より町内会長や消防団長の参加により地域情報リサーチや地域の要請を受ける場としても生かされている。(例:消防団への加入、民生委員や地域の方の見学施設、四つ角マーケット参加等)また、小規模とグループホームでの合同開催であり参加者も多いが、平日開催の為家族の参加は難しいようである。	メンバー構成は更に充実してきているが、参加の無い家族に向けて議事録の配布による情報の共有化を検討いただきたい。運営推進会議に興味を示され、参加に繋がることが期待される。また、家族の参加できる日程等を聞き取りすることも一案である。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括職員に参加して頂きホームの現状を報告している。	市が開催する集団指導への参加や介護相談員制度の報告書をもとにした意見交換をケアサービスに反映させ、相談員との意見交換会に参加している。社協による傾聴ボランティアや介護サポーター等の紹介により外出行事に協力を得ている。また、更新認定訪問時に意見交換を行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内外研修へ参加し、勉強行い、日々のケアの中でも拘束になっていないか話し合いケアをおこなっている。	身体拘束はもともと行わない事としているが、全体研修により再認識を図り、転倒予防にセンサーマットを利用する場合は入居者の行動を制限するか否かを検討する等弊害について全員が正しく認識している。また、管理者は職員の都合や業務中心にならないようにと指導し、職員個々が入居者の不安感の払しょくにコミュニケーションに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で虐待について学び、日ごろのケアでの行動や言葉等の精神的虐待にならない様にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で権利擁護について学び、知識は得ているが、理解できている面と出来ない面もあり常に努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に契約内容を説明し、不安や疑問があった場合に、優しく丁寧な対応をするように心掛けている。また、改定時には事前に連絡行い、個別に説明を実施しご理解して頂き、記名、押印して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、運営推進会議で、ご家族が話せる時間を設け、今後の運営に活かしている。	意見箱を設置しているが利用されることは無く、病院受診時等訪問される家族に状況を報告し、「何かありませんか」と意見や要望を引き出しており、家族からは安心した言葉や雰囲気の良い等が多く聞かれ、職員のモチベーションとして生かされている。また、家族の意見を受け全員でミーティングを行い、2週間で数値化し家族に説明する等適切に対応している。ホーム内外の苦情相談窓口を明示し、契約時に説明している。	家族とのコミュニケーションが重要であると認識されており、今後、家族への情報発信源（例えばホーム便り等）を検討されることを期待したい。また、家族が一堂に会する機会を設け、家族同士の交流する機会や悩みの共有の場、及び忌憚りの無い意見等を収集する場とされることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや、ミーティングの中で意見や提案を出し合い、運営に反映させている。また、代表者も頻りにホームへ訪れ職員と会話をしながら、ホームの状況を確認している。	管理者はケアに入りながら職員とのコミュニケーションを図り、申し送りや毎月のミーティングの中で職員の意見をもとに話し合いを行っている。代表等法人関係者も頻りにホームを訪れ利用者や職員とのコミュニケーションに努めている。職員個々も自己チェックを行い、代表・部長により個人面談時に職員の悩み等を聞き取りしている。法人全体での忘年会やボーリング大会の他、ホームでは歓送迎会の開催や希望により勤務調整等働く環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はホームを訪れ、職員に声を掛けられている。また、職場環境、条件については、個別に面談して頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に社内研修が実施されている。また、内外の研修に参加できる機会を設け知識の向上に努めると共に資格習得のための研修にも参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市グループホーム連絡協議会の研修への参加を通じ、情報交換しサービスの向上できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族が相談に見えた際、本人の意向や困っている事、不安な事を聞き取り、安心して入居出来る様、配慮している。利用前でも相談に応じられる事も説明し安心できる環境作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や面談に見えた時、不安や要望等を伺い、相談に応じアドバイスを行いながら、関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との面談やこれまでのケース記録から、本人にとって最も必要とされるサービス内容を把握し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に家事を行っていく中で、役割を持って頂きながら、共感できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に身体状況や生活の様子など報告し把握して頂き、共に支えて行く関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会時、ゆっくり話が出来よう配慮し、日頃の会話の中でも馴染みの人や場所の記憶が途切れない様になっている。	家族や親類・友人の訪問の他、かかりつけ医の継続、初詣や正月の外出及び墓参に家族の協力を得ながら支援している。また、夫婦での入居者やデイサービスを利用される姉妹との面会、本を見ながら自宅でのくらしの様子を引出したり、回想を生かしながら支援しており、住み慣れた場所への外出に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流を図る為、体操やレクリエーション等、積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談出来る様ご家族へ説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を日常の会話の中で把握できるようにしている。	アセスメントの中での希望や意向の把握の他、まず職員から声をかけておおよく会話される入居者や、難聴者には単語や耳元での会話により思い等を聞き取りしている。また、失語症の方や意思疎通・発語困難時には答えやすい質問を投げかける等自己決定の場を作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を参考にしながら本人、家族の意向を尊重し安心して生活できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体面や精神面の観察に努めスタッフ間で申し送りを行い現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員より情報収集しケース検討会で話し合い、介護計画書を作成している。計画に基づき、サービス内容の検討や変更をカンファレンスにて行っている。	記録時にプランの確認と共に入居者個々の現状を把握し、6ヶ月毎のモニタリングにより実施状況の確認や達成度を見極め、方向性を決定している。プラン変更時にはアセスメントから取り直し、担当者会議を開催している。また、入院による見直しやミーティングの中でケア改善点を話合う等現状に応じたプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に従い、ケアの状況、結果を個別に記録し、内容を申し送り、情報を共有しながら介護計画書の見直しに反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その人に必要な支援が出来る様努めている。また、他部署と年に数回、合同行事を計画し交流の場を作っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会に依頼し、介護サポーターやボランティアの方に定期的に来て頂いている。また、外出行事や様々な行事にも協力を得て事故がないように配慮を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と話し合い、要望に沿った対応を行っている。家族による受診の際には、最近の状況等を文章にて報告している。また、病状悪化時には、主治医へ連絡し早期発見に努め適切な受診が受けられるようにしている。	入居者・家族の希望のかかりつけ医とし、これまでの馴染みの主治医の継続や訪問診療の出来る医療機関への変更等に応じている。家族対応での受診時は情報提供書を託したり受診結果を共有し、個々の主治医と連携し適切な医療への受診に繋げている。職員はバイタルチェックや日頃の観察で異常の早期発見に努め、看護職や訪問看護師とも相談しながら早めの受診に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師、及び訪問看護師と24時間連絡が取れる体制が整っており、利用者が迅速に適切な対応が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては、安心して治療が出来る様配慮している。入院中の状況を把握し、病院のスタッフと状況を共有しながらスムーズな退院、その後の適切なケアが出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を確認し、主治医を交えた話し合いを行い、ホームで出来る事、困難な事を理解して頂き、終末ケアを行っている。また、ホーム内の看護師不在の際は他部署の看護師の協力を得ている。	看取りに関する指針を作成し、重度化時や緊急時の事前指定書を交わしている。状態に応じて医師を交えて話し合い、希望により看取り介護の同意書や看取りプランの下、今年ホームで初めての看取りを支援している。在宅医療に志のある主治医の助言や家族の協力で、その人らしい尊厳ある最期にチームで取り組み、職員の経験や思いは外部研修会で実践報告されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な社内研修の中でAEDの操作方法や事故発生時の対応について学んでいる。また、緊急時の連絡方法も周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導による年2回の施設内合同訓練を行い、町内消防団長にも参加頂いた。また、火災について安全点検チェック表を毎日記入しスタッフの意識付けを行っている。	年2回の避難訓練を法人施設合同で実施し、設備点検や日常の安全チェックで火災予防を意識付けている。又、消防団長が運営推進会議に出席しホーム内の様子を見てもらっている。自然災害についてはマニュアルの整備や備蓄を準備し、地域の避難場所についても確認しており、台風接近時等には法人で対策を話し合っている。	ホームの男性職員や法人施設からも消防団に新たに入団し町内からの期待も大きく、今後は地域との合同訓練等で相互協力が図られる事が期待される。消防団からの運営推進会議参加時に地域防災について講話等をして頂くことも検討いただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修にて虐待防止、プライバシー保護について学び、一人ひとりの尊厳を大切に、本人の権利を意識し適切な対応を行っている。	職員は一人ひとりに合わせた呼称や尊厳に配慮した語りかけに努め、認知症の勉強会で業務に追われることなくふれあいのケアやコミュニケーションの取り方等を共有している。管理者は馴れ合いの言葉や態度等が気になる時は指導を心掛け、職員の耳元での話しかけやトイレ誘導時等のプライバシーへの配慮が確認できた。又、個人情報の取り扱いに注意を払い、守秘義務については入職時に誓約を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事や外出等では、分かりやすく説明し自己決定して頂けるような言葉掛けをすると共に言動からニーズを読み取るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴を把握し、その日の体調に合わせた生活が送れるようにしている。また、事故のないよう注意しながら居心地の良い生活が送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や場に応じた衣類などのアドバイスを 行っている。また、職員手作りのヘアゴムにて、毎日、ヘアスタイルをアレンジしおしゃれを楽しんでいただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に盛り付けや味付けを行うことで、コミュニケーションを図り、食事が大切な物になるよう支援している。また、職員が検食行い、問題ある場合はすぐに対応を行っている。	法人での献立や下ごしらえされた材料をホームで調理し、食事準備の匂いがホーム内に漂うことで五感の刺激となり、入居者は注ぎ分けや食器洗いなど出来る事に関わりを持っている。刻み食や二度炊き等個々に合わせた形態で提供しており、ゆっくりと自分のペースでの食事を職員が見守りや声かけで対応している。又、行事に合わせたイベント食や一日の赤飯は入居者の楽しみや見当識となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食事形態の提供に努めている。また、食事量の把握や水分量の少ない方へは、こまめな声掛けや甘い飲み物を提供し、脱水にならないよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせた援助方法で毎食後の口腔ケアを行っている。また、必要に応じ訪問歯科にて対応をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や表情、体動より排泄への声掛け誘導行い、トイレでの排泄が出来るよう努め自立に向けた支援を行っている。	自立の方へのさり気ない見守りや、個々のパターンを把握し区切りの時間や様子を察した声かけ等で昼間は全員トイレでの排泄を支援している。又、下着や排泄用品を状態や昼夜で検討したり、家族への説明には本人の排泄状況のデータを取る等しながら適切な排泄用品の使用に努め、夜間時は状態や様子を見ながら安眠にも配慮し誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、記録し把握している。水分摂取が少なくならない様、水分補給に努め、また、毎日運動の時間をとり、便秘予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の際、本人の拒否や体調に応じ無理に行う事のないよう努めている。また、季節によりゆず湯やしょうぶ湯にて楽しんでいただいている。	家庭的な浴室であり、安全な入浴の為に職員間で写真での介助方法を共有しながらケアの統一を図っている。入居者の希望に沿い間隔を考慮しゆっくりと寛いだ支援に努め、汚染時や発汗時等はその都度対応している。拒否に対しては言葉かけを工夫したり次の日に支援したりと無理強いをしないように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンやその時の状況に応じつろいで過ごせるよう支援している。また、日中活動の場を提供し、夜、安眠できる生活リズムが整うよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴や薬について理解し誤薬のないよう与薬時、名前、日付け確認を行っている。症状の変化について観察し看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の体調に合わせ、家事手伝いの声掛けや趣味の習字や編み物等出来るよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など体調に配慮し行っている。また、外出行事や地域行事の際はボランティアや家族へ協力して頂き出かけられるよう支援している。	入居者のその日の体調や状況に合わせて近隣の公園や近くの商店へ買い物に出掛けたり、併設のデイサービスに出向き気分転換を図っている。入居者の希望で水前寺公園に出かけたり地域行事のどんどこや・花見・動植物園等への外出や、今年度は介護サポーターの協力で全員でのコスモス見学が実現している。	入居者の殆どが外出の際は車椅子使用中、全員での外出が出来た事は職員にとっても喜ばしい支援となっている。今後も周りの協力を得ながら、外出の機会が更に多くなることが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、ご家族の希望に応じ所持して頂き、買い物や外出行事の際、使えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	馴染みの方から贈り物が届いた際は、一緒に電話をかけ交流関係が円滑に継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度は1日2回チェック行き快適に過ごせるよう配慮している。また、季節に合った作品作りや生花を飾り居心地良く過ごせるよう工夫している。	法人施設と合同のビルの2階部分にあるホームは、明るい環境で経年を経ても手入れの行き届いた家庭的な雰囲気となっている。入居者が日中を過ごすリビングはテレビを中心にソファが置かれ、動線や相性に合わせテーブルを配置し、入居者の貼り絵や書の作品が掲示されている。温湿度管理が徹底され、窓から眺められる街路樹や室内に活けられた花に季節感を感じる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファ等、お好きな場所にてテレビを見たり、職員と一緒におりがみや歌など思い思いに過ごされるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、ご家族と相談し使い慣れた馴染みのある家具を持ってきて頂き本人の住んでいた部屋と同じ空間で居心地良く過ごせる様に工夫している。	入居時に使い慣れた品物の持ち込みを依頼し、こだわりの家具や家族写真等を持ち込み、花の好きな入居者は出窓に鉢植えを置いたり、職員と一緒に仏壇に水を供える等その人らしい部屋作りがされている。洗面台や収納スペースが設けられ、居室内は整頓や清掃が行き届き本人が居心地よく過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る能力を把握し居室のネームプレートを大きくし見やすくしたり、トイレの場所も分かりやすいよう張り紙を行い、安全に配慮しながら自立支援を行っている。		